

Title	オフィス古紙対策と企業の文化的責任
Sub Title	
Author	土田真輔(Tsuchida, Shinsuke) 田中滋
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1997
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1997年度経営学 第1359号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1359">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1359</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## オフィス古紙対策と企業の文化的責任

本研究の貢献は、企業の社会的責任の一例であるオフィス古紙対策の課題を明らかにした点である。

第1章では、古紙対策を進める必要性を述べた。森林資源保護、廃棄物排出抑制、倫理的アプローチの3つの観点から、現在社会の義務として古紙対策の必要性を捉えている。

第2章では、古紙問屋段階での古紙過剰在庫問題の報道を紹介するとともに、分析を試みた。古紙対策の中核をなしている古紙リサイクルの促進を目的とした行政の古紙回収奨励がこの問題の原因である。分析によって古紙問題の原因を整理し、日本社会全体の古紙対策の課題を考察している。

第3章では、オフィス古紙対策を促す要素として、経済的政策手段、ISO14000、企業の社会的責任に注目した。それぞれの基本的説明とオフィス古紙対策取組への影響の考察を行った。

第4章では、企業内部のオフィス古紙対策の現状を調査した。資料は、各企業の広報資料及びアンケート回答である。

第5章では、論文の結論として、研究によって得られたオフィス古紙対策の課題を述べた。具体的なオフィス古紙対策の課題と、対策導入を促すインセンティブに分類して解説を加えた。

研究によって、現在のオフィス古紙対策には課題があり、解決には社会的責任による自発的行動ではなく他のインセンティブによる補完が望ましいという結論を得た。